

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子
正しく判断し 行動できる子

自分も友だちも大切にする子
体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和5年12月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <https://www.tachikawa-edu.jp/es05/>

地域とともに ～防災・立川市民科～

校長 関口 保司

平成7年(1995年)1月17日午前6時前の出来事です。神戸に住む実家の母親から、突然電話がありました。「我が家は大丈夫だから。お父さんも大丈夫。これから親戚の様子を見に行くから。」私は何のことか分からず、母親の言われるまま、テレビをつけました。そこには、ヘリコプターの映像で、故郷の神戸の街の惨状が映っていました。あちこちで上がっている黒煙。倒れている建物。私はしばらくの間、映像で起きていることが理解できませんでした。実は連休を使って実家に帰り、前日の夜に東京に戻って来ていた私には、信じられない出来事だったからです。当時学級担任だった私は、校長先生にお願いして、何度も子どもたちとニュースを見ました。何かしたくても、何もできない自分に大変苛立ったことを覚えています。電話をしても、実家はもちろん親戚や友人にもつながりません。やっと連絡が取れたのは数日後のことでした。我が家は半壊。親戚のなかには、亡くなった方もいました。

平成23年(2011年)3月11日には東日本大震災が起こりました。その年の4月に校長に昇任した私は、毎年1月と3月は全校朝会等で地震の話をすることにしています。「校長先生は、あえて同じ話を今年も行います。」と前置きし、繰り返し子どもたちに話すようにしています。

今年は何東大震災から100年の節目の年です。先日(11月18日)高松町自治会連合会や保護者の皆様と、本校児童が一緒になって、地域合同防災訓練を実施しました。今年度は、煙ハウスや起震車、包帯法等の体験にも地域や保護者の皆様にも参加していただきました。初期消火や通報訓練に参加していただいた方もいます。いざという時に、学校は避難所に指定されています。5年生が体育館で実施したファミリールームやダンボールベッド作りは、避難所を開設した時にも有効です。6年生は校舎内で立川消防署の方に指導していただき、救急・救命法の講習を実施しました。これは、今年度教科化2年目となる立川市民科の授業の一つです。市内の小中学校では、救急・救命法の講習を立川市民科として実施することにしています。立川市民科の目的は「地域に根ざした探究的な学習等を通して、市民性を育むことにより、多様性を尊重し、世界の人々とも力を合わせ、『よりよい社会』の実現に向け、主体的に考え、行動する市民を育成すること」です。今回の地域合同防災訓練も、この立川市民科の目的を踏まえ取り組みました。いざという時には、子どもも大人も、皆が力を合わせて取り組むことが必要です。防災の話や授業はもちろん、地域の皆様とともに、教育活動を進めていきたいと考えています。これからもご理解・ご協力をよろしくお願い致します。